

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 1

研修コード	A-1-(1)-①	研修科目	一般教養 コミュニケーション力向上	区分	座学
背景と目的	バランスのとれた心の持ち方を身につけ、組織内でより良い人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上を図る。				
科目内容	社会人として必要な豊かな人間関係の構築に欠かせないコミュニケーションについて学ぶ。				
日程	6月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	コミュニケーション能力の向上	・仕事とコミュニケーション ・より良い人間関係 ・メンタルタフネス(バランスのとれた心、感情のコントロール)	6	人材育成 トレーナー 滝 玲子	林業技術 センター 中研修室
		計	6		
到達目標	組織内でより良い人間関係の構築やコミュニケーション能力を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼 パソコン、プロジェクター 研修生：筆記用具				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 2

研修コード	A-1-(1)-②	研修科目	一般教養 課題解決力	区分	座学
背景と目的	創造力を身につけ、道理や道筋に則って結論を導く問題解決能力の向上を図る。				
科目内容	県内林業のフロントランナーが解決した課題と取組について学ぶ。				
日程	10月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	ゼロからのスタート	(有)前田産業の創業で直面した課題の解決	3	(有)前田産業 前田 隆雄	林業技術 センター 中研修室
		計	3		
到達目標	創造力を身につけ、道理や道筋に則って結論を導く問題解決能力を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼 パソコン、プロジェクター 研修生：筆記具				
関連講習	経営高度化課程の研修と併催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 3

研修コード	A-1-(1)-③	研修科目	一般教養 キャリアデザイン	区分	座学
背景と目的	これまでの自分を振り返り、自分の特性や強みを活かした将来像を描くことにより、個性と能力を発揮して主体的に行動し、成果を出せる人材となることを動機づける。				
科目内容	自分を観て、自分を活かすキャリアデザインについて学ぶ。				
日程	9月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	キャリアデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を振り返る ・自分を観る ・キャリアデザイン 	6	人材育成 トレーナー 滝 玲子	林業技術 センター 中研修室
		計	6		
到達目標	自分を振り返り、自分の特性や強みを活かした将来像を描くことができる 個性と能力を発揮して主体的に行動する能力を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼	パソコン、プロジェクター	研修生：筆記具		
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 4

研修コード	A-1-(1)-④	研修科目	一般教養 地域経済	区分	座学
背景と目的	地域経済の現状を把握し、活性化させる方策について理解を深める。				
科目内容	地域経済の個性や取引の姿について学ぶ。				
日程	10月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	地域が元気になる方法はこれだ	・本県経済と全国の取組 ・地域経済を活性化する方針	3	宮崎大学 農学部	林業技術 センター 中研修室
		計	3		
到達目標	地域経済の現状を把握し、活性化させる方策を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼	パソコン、プロジェクター	研修生：筆記具		
関連講習	リーダー養成課程の研修と併催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 5

研修コード	A-1-(1)-⑤	研修科目	一般教養 地方創生	区分	座学 実習
背景と目的	地域の伝統文化等の活用による地域振興について理解する。				
科目内容	伝統文化の大切さと地域の関わりについて学ぶ。				
日程	7月（1日間）、1月（2日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	美郷町西郷の御田祭	祭りの準備、参加（座）	6	美郷町、耳川広 域森林組合	美郷町 西郷田代
2	美郷町南郷の師走祭	祭りの準備、参加（実）	9	美郷町、耳川広 域森林組合	美郷町 南郷神門
		計	15		
到達目標	地域の伝統文化等の活用による地域振興について理解を深める。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 （3段階評価）				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、ヘルメット等				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 6

研修コード	A-1-(1)-⑥	研修科目	一般教養 リーダーシップ	区分	座学
背景と目的	将来の本県林業担うリーダーとなることを動機づける。				
科目内容	なぜ地域づくりは人づくりなのか？先進的な取組を事例に地域を創るリーダーの志とマネジメントについて学ぶ。				
日程	11月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	地域を創るリーダーになろう～その志とマネジメント～	・地方創生は人づくり ・先進事例とリーダー ・アクティブプランニング	6	人材育成 トレーナー 滝 玲子	林業技術 センター 中研修室
		計	6		
到達目標	将来の本県林業担うリーダーとなることを動機づける。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼		パソコン、プロジェクター	研修生：筆記具	
関連講習	経営高度化課程及びリーダー養成課程の研修と併催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No.7

研修コード	A-1-(1)-⑥	研修科目	一般教養 地域交流	区分	座学
背景と目的	森林とのふれあい祭りにより、青少年や一般の人との地域交流を図り、地域を担うリーダーとなる志と森林林業の重要性を理解する。				
科目内容	地域との交流を通して地域を担うリーダーの志について学ぶ。				
日程	11月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	地域との交流～リーダーとしての志を醸成	・地域交流における人づくり ・一般、青少年との交流 (林業機械、木工教育)	6	森林林業協会	林業技術センター
		計	6		
到達目標	将来の本県林業担うリーダーとなる志と木工教育等を通し森林林業の重要性を理解する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼	パソコン、プロジェクター	研修生：筆記具		
関連講習	経営高度化課程及びリーダー養成課程の研修と併催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No.8

研修コード	A-1-(2)-①	研修科目	森林・林業教育 森林・林業の役割	区分	座学
背景と目的	森林・林業の役割や人とのつながりについて理解を深め、林業に携わる者としての意識の醸成を図る。				
科目内容	日本や本県の森林資源や森林の役割と大切さを理解する。また、林業に携わる者としての責務を学ぶ。				
日程	5月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①-1	森林・林業の役割や大切さ	①森林の姿、②森林の働き、 ③森林を育てる、④地球温暖化と森林	6	林業技術センター	林業技術センター 中研修室
		計	6		
到達目標	森林・林業の役割や人とのつながりについて理解を深め、林業に携わる者としての意識を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	森林・林業白書(林野庁編)、宮崎県の林業・木材産業の動向(山村・木材振興課) 森林を知る資料データ解説集((社)全国林業改良普及協会)、森のセミナー((社)全国林業改良普及協会)、森の技・山の作法((社)全国林業改良普及協会)				
教育機材	パソコン、プロジェクター パワーポイント 研修生：筆記具				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 9

研修コード	A-1-(2)-②	研修科目	森林・林業教育 林業と行動規範	区分	座学
背景と目的	森林・林業を適切に管理するための考え方や、伐採・搬出の作業方策について理解する。				
科目内容	森林・林業を適切に管理するための考え方や、伐採・搬出の作業方法の概要を学ぶ。				
日程	1月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
②	林業と行動規範	伐採・搬出ガイドライン	3	NPO法人「ひむか 維森の会」 松岡 明彦	林業技術セン ター中研修 室、現地
				宮崎大学教授 藤掛一郎	
		計	3		
到達目標	森林・林業を適切に管理するための考え方や、伐採・搬出の作業方策について理解し、林業に携わる者としての知識を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	講師に依頼 伐採・搬出ガイドライン				
教育機材	講師に依頼 パソコン、プロジェクター 研修生：筆記具				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 10

研修コード	A-1-(3)	研修科目	林業の歴史 宮崎県の林業史	区分	座学
背景と目的	本県林業の歴史を知り、本県の森林・林業・木材産業に対する深い愛着を育む。				
科目内容	各時代における林業の変遷を理解し、全国屈指の林業県を創った先人達の取組を学ぶ。				
日程	10月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	飢肥林業・林業史	飢肥林業の成立と発展の歴史・本県林業史	3	南壽敏郎、宮崎南部森林管理署	日南市外森林管理署
		計	3		
到達目標	本県林業の歴史を知り、本県の森林・林業・木材産業に対する魅力を理解する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師に依頼、宮崎県林業史				
教育機材	講師に依頼、映画「飢肥杉の一生」		研修生：筆記具		
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 11

研修コード	A-1-(4)	研修科目	森林・林業の諸制度 森林・林業の現状と施策概要	区分	座学
背景と目的	森林・林業の現状と制度や施策を理解する。				
科目内容	森林・林業の現状や法令及び施策の概要を学ぶ。				
日程	4月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	世界の森林・日本の森林	世界及び日本の森林・林業の現状	1.5	森林経営課 林業普及指導 担当	林業技術 センター 中研修室
②	宮崎県の森林・林業・木材産業	宮崎県の森林・林業・木材産業	3	森林経営課 林業普及指導 担当	林業技術 センター 中研修室
③	森林・林業基本法、森林法	森林・林業に係る法令及び制度の概要	1.5	森林経営課 林業普及指導 担当	林業技術 センター 中研修室
		計	6		
到達目標	森林・林業の現状と制度や施策を理解し習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	森林・林業白書、第八次宮崎県森林・林業長期計画、オリジナルテキスト				
教育機材	パソコン、プロジェクター		研修生：筆記具		
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 12

研修コード	A-1-(5)	研修科目	森林経営 森林経営と機能、計画と管理	区分	座学
背景と目的	森林経営における樹木測定や、森林経営計画と管理に必要な知識と技術、森林の機能と意義を理解する。				
科目内容	森林経営における樹木測定や、森林経営の計画と管理に必要な知識と技術の概要を学ぶ。				
日程	4月(1日間)、5月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	森林経営について知識を習得する	・森林機能を高める経営方法 ・森林の測定(立木材積等) ・木材の流通	12	林業技術センター	林業技術センター 中研修室
		計	12		
到達目標	森林経営における測定、計画と管理に必要な知識と技術を習得し、森林の機能と意義を理解する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポート、小テスト実施による確認とする。 小テストにおいて、研修生の習得度を評価する。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポート、小テスト実施による内容が到達目標を達成していること。小テストにおいて、研修生の習得度を評価する。(3段階評価)				
テキスト	(講師) 森林経営(文部科学省)教科書、オリジナルテキスト外				
教育機材	パソコン、プロジェクター		研修生: 筆記具		
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合: 「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 13

研修コード	A-1-(6)	研修科目	森林科学 森林生態、山地保全、木材生産	区分	座学
背景と目的	森林の役割や生態など森林の恵み、人が森林を管理する技術、人間社会と森林の関係について理解する。				
科目内容	森林の役割や生態、森林の育成技術、山地の保全方法等について概要を学ぶ。				
日程	4月(2日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	森林科学について知識を習得する	・森林の役割、生態 ・森林の育成 ・山地の保全、木材の生産	12	林業技術センター	林業技術センター 中研修室
		計	12		
到達目標	森林の役割や生態など森林の恵み、人が森林を管理する技術、人間社会と森林の関係について理解し習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポート、小テスト実施による確認とする。 小テストにおいて、研修生の習得度を評価する。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポート、小テスト実施による内容が到達目標を達成していること。小テストにおいて、研修生の習得度を評価する。(3段階評価)				
テキスト	森林科学(文部科学省)教科書、オリジナルテキスト外				
教育機材	パソコン、プロジェクター		研修生：筆記具		
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 14

研修コード	A-1-(7)	研修科目	林産物利用 資源の循環利用、木材と用途	区分	座学
背景と目的	木材の構造や性質・用途を理解し、木材の製材・二次加工・利用の知識と技術を理解する。				
科目内容	木材の構造や性質・用途を幅広く理解し、林産物の多様な利用について概要を学ぶ。				
日程	4月（1日間）、5月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	林産物利用について知識を習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の循環利用 ・木材の性質と用途 ・製材と木材の工作 ・木材の加工と利用 	12	林業技術センター	林業技術センター 中研修室
		計	12		
到達目標	木材の構造や性質・用途を理解し、木材の製材・二次加工・利用の知識と技術を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポート、小テスト実施による確認とする。 小テストにおいて、研修生の習得度を評価する。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポート、小テスト実施による内容が到達目標を達成していること。小テストにおいて、研修生の習得度を評価する。（3段階評価）				
テキスト	林産物利用（文部科学省）教科書、オリジナルテキスト外				
教育機材	パソコン、プロジェクター		研修生：筆記具		
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 15

研修コード	A-2-1	研修科目	森林計画 森林計画制度	区分	座学
背景と目的	森林計画制度に関する知識を理解する。				
科目内容	森林計画制度を理解し、森林経営計画の作成方法について学ぶ。				
日程	6月（1日間）、11月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	森林計画制度について	・森林計画制度の概要 ・伐採届と造林の計画 ・違法伐採の現状	3	森林経営課 森林計画担当	林業技術 センター 中研修室
2	森林経営計画について	・森林経営計画の仕組み	3	森林経営課 森林計画担当	
3	森林経営計画の立案 (机上演習)	・森林経営計画立案の机上演習	3	森林組合、林 業技術セン ター	
		計	9		
到達目標	森林計画制度に関する知識、森林計画作成方法を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	森林経営課森林計画担当作成資料、森林経営計画ガイドブック				
教育機材	パソコン、プロジェクター 研修生：筆記具				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 16

研修コード	A-2-(2)-①	研修科目	森林経理 林業経済	区分	座学
背景と目的	林業経営に必要な林業経済に関する知識を理解する				
科目内容	林業経営に関する経済の仕組みを学ぶ。				
日程	10月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	林業経済の概要について	・林業経営に必要な林業経済の基礎知識 ・林業事業体の福利厚生現状	3	宮崎大学 藤掛一郎	林業技術センター 中研修室
		計	3		
到達目標	林業経営に必要な林業経済に関する知識を習得する				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	パソコン、プロジェクター		研修生：筆記具		
関連講習	A-2-(2)-③：林業金融・林業税制				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 17

研修コード	A-2-(2)-②	研修科目	森林経理 林業金融・林業税制	区分	座学
背景と目的	林業に関する金融制度や税制について必要な知識を理解する。				
科目内容	宮崎県の林業関係の融資制度、林業・木材産業関係の税制の概要を学ぶ。				
日程	7月（1日間）、3月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
②	林業金融について	林業関係融資制度の概要	1.5	日本政策金融 公庫宮崎支店	林業技術 センター 中研修室
②	林業税制について	・林業・木材産業関係税制の概 要、森林の登記や優遇措置	1.5	山村・木材 振興課外 税理士	
		計	3		
到達目標	林業に関する金融制度や税制について必要な知識を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	宮崎県林業関係融資制度のご案内、講師による作成資料				
教育機材	パソコン、プロジェクター 研修生：筆記具、電卓				
関連講習	A-2-(2)-①②：林業経済				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 18

研修コード	A-2-(3) B-1-(1)	研修科目	森林測量	区分	座学 実習
背景と目的	林業経営を行う上で必要となる測量技術を理解する。				
科目内容	測量の基礎知識を学ぶとともに、実習による周囲測量、作図及び面積計算を学ぶ。				
日程	5月(4日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-2-(3)	測量の基礎知識	基礎知識(測量の種類、地形図の見方など)	6	(一社)宮崎県治 山林道協会	林業技術 センター
B-1-(1)	コンパス測量、製図実習	周囲測量(コンパス測量、製図、面積計算など)	18	(一社)宮崎県治 山林道協会	中研修室
		計	24		
到達目標	林業経営を行う上で必要となる測量技術を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	簡易コンパス、トランシット、GPS、デジタルコンパス、ポール、巻き尺、関数電卓 研修生：作業着、ヘルメット、関数電卓、筆記具、定規				
関連講習	B-1-(4)：ICT等先端技術				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 19

研修コード	A-2-(4) B-1-(2)	研修科目	森林調査 森林調査方法と立木評価	区分	座学 実習
背景と目的	正確な森林調査方法、立木評価方法を理解する。				
科目内容	森林資源量を的確に把握するために必要な基礎知識を学び、立木評価や素材生産コストの算定方法について学ぶ。				
日程	9月(3日間)、11月(1日間)、3月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-2-(4)	立木評価の基礎 (座学)	・現地で立木評価するための基礎知識の習得	3	林業技術センター	林業技術センター 中研修室 木材市場
A-2-(4)	素材生産コスト算定手法の取得(座学)	・素材生産コスト分析について(材積算出、市場価逆算法)	9	林業技術センター	
B-1-(2)	森林調査方法の基礎 (実習)	・林業経営に必要な森林調査方法の習得 ・測樹(立木計測)の方法	15	林業技術センター	現地
		計	27		
到達目標	正確な森林調査方法、立木評価方法を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポート、小テストの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポート、小テストの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	宮崎県立木評価の手引き、講師による作成資料				
教育機材	パーテックス、輪尺(直径テープ)、巻き尺、ポール、関数電卓 研修生：作業着、ヘルメット、関数電卓、筆記具				
関連講習	B-1-(4)：ICT等先端技術				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 20

研修コード	B-1-(3)	研修科目	ICT等最新技術	区分	座学 実習
背景と目的	ICT等先端技術を活用した森林調査の方法・情報分析の手法について理解する。				
科目内容	ICT等先端技術を活用した森林調査方法について学ぶ。				
日程	5月（1日間）、7月（1日間）11月（3日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	レーザ測量	レーザコンパスを活用した森林調査	3	林業技術センター	林業技術センター 中研修室
2	作図、解析	1による作図	3	林業技術センター	
3	ICT活用	ドローン 地上レーザ計測	18	林業技術センター、 治山林道協会、企業	
4	ICT活用	高性能林業機械シミュレーションシステム外（座）	3	企業	
5	ICT活用	高性能林業機械シミュレーションシステム外（実）	3	企業	
		計	30		
到達目標	ICT等先端技術を活用した森林調査の方法・情報分析の手法を習得する。 森林調査等における収穫予想表や図面の成果品を作成する。				
評価方法	実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。 森林調査等の成果品で評価する。				
評価基準	実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 実習状況の成果品の評価を3段階で評価する。				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	輪尺、木材チョーク、測量器具、ドローン、パソコン 研修生：作業着、ヘルメット、関数電卓、筆記具				
関連講習	A-2-(3)：森林測量（座学）、B-1-(1)：森林測量（実習）				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 21

研修コード	A-3-(1) B-2-(1)	研修科目	森林生態・樹木学	区分	座学 実習
背景と目的	森林生態及び樹種樹木に関する基礎知識を理解する。				
科目内容	森林生態系と林業の関わりや、主要な樹種・樹木の特性、用途について学ぶ。				
日程	10月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-3-(1)	森林生態学Ⅰ	森林生態の基礎知識	1.5	宮崎大学 高木正博	宮崎大学 林業技術 センター
A-3-(1)	樹種特性	・ 樹種による特性を把握 ・ 樹種による特徴と用途	1.5	宮崎大学 高木正博	
B-2-(1)	樹木識別	樹形、葉、樹皮などの違いによる樹木の識別方法	1.5	宮崎大学 高木正博	
B-2-(1)	森林生態学Ⅱ	森林遷移について、森林生態系の仕組み、人間との関わりを学習	1.5	宮崎大学 高木正博	
		計	6		
到達目標	森林生態及び樹種樹木に関する基礎知識を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	講師の作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 22

研修コード	A-3-2	研修科目	造林・育林 造林・育林技術	区分	座学
背景と目的	造林・育林の施業方法、森林整備事業に関する基礎知識を理解する。				
科目内容	造林・育林の施業方法を体系的に学び、森林整備事業を活用する方法を学ぶ。				
日程	5月（1日間）、6月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	造林・育林について	・施業方法の基礎知識 ・本県の森林施業	3	林業技術 センター 育林環境部	林業技術 センター
2	森林整備事業について	・森林整備事業の体系 ・補助事業の活用方法	3	森林経営課	中研修室
		計	6		
到達目標	造林・育林の施業方法、本県の森林施業を習得する。 森林整備事業の体系、補助事業の活用方法を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	森林経営課森林整備担当作成資料、造林作業安全衛生実務必携、 宮崎県長伐期施業技術指針、森林整備事業のあらまし(全国林業改良普及協会発行)				
教育機材	パソコン、プロジェクター		研修生：筆記具		
関連講習	B-2-(3)～(6) (造林実習)				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 23

研修コード	A-3-(3) B-2-(2)	研修科目	苗木生産 苗木生産技術	区分	座学 実習
背景と目的	苗木生産技術の基礎知識や苗木の生産方法を理解する。				
科目内容	苗木（露地苗、コンテナ苗）を生産するための基礎知識を学ぶとともに、生産実習を通じて苗木の生産方法について学ぶ。				
日程	5月～6月（3日間）、1～2月（4日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-3-(3)	苗木の生産方法	・苗木生産の基礎 ・生産方法について	1.5	林業技術 センター	林業技術 センター
A-3-(3)	コンテナ苗生産	・生産資材について ・苗畑生産との違い	1.5	林業技術 センター	林業技術 センター
B-2-(2)	育苗	・穂木の挿し付け ・コンテナ育苗培地づくり	12	林田農園 他	川南町外
B-2-(2)	育苗	・採穂台木の管理 ・コンテナ苗採穂の方法 ・圃場管理	24	林田農園 他	川南町外
		計	39		
到達目標	苗木生産技術の基礎知識や苗木の生産方法を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼 パソコン、プロジェクター、実習用具（穂木、培地、コンテナ等） 研修生：作業着、手袋（軍手）、長靴、剪定ハサミ				
関連講習	経営高度化課程と共催（一部）、C-1-(2)：林業用種苗生産者講習				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 24

研修コード	B-2-(3)	研修科目	造林 地拵え・植栽・防護柵設置技術	区分	実習
背景と目的	地拵え、造林、防護柵設置技術を理解する。				
科目内容	造林現場において地拵え、植栽、防護柵設置方法を学ぶ。				
日程	1月～2月（8日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	地拵え	・地拵え方法 ・枝条の片付け	18	耳川広域森林組合	美郷町 周辺
2	植栽	・苗木の取扱、仮植 ・植え穴掘り、植栽	18	耳川広域森林組合	
3	防護柵	・設計 ・支柱設置、網設置、点検	12	耳川広域森林組合	
		計	48		
到達目標	地拵え、植栽、防護柵設置技術を理解するとともに、現場実習で現状に応じ安全かつ確実に施業できる技術を習得する。				
評価方法	実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。 講師・職員が研修生の習得度（機械操作、安全確認、施業技術）を評価する。				
評価基準	実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価） 講師・職員が研修生の習得度を5段階で評価する。				
テキスト	講師に依頼 造林作業安全衛生実務必携、				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、ヘルメット、防振手袋、水分、雨具、長靴、手袋、苗木、防護ネット一式、下刈機、チェーンソー、腰ナタ、トウガ等				
関連講習	A-3-(2)：造林・育林（座学） C-1-(3)：造林作業指揮者				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	実習の場合：「実習状況の観察」は主に「集中度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 25

研修コード	B-2-(4) B-2-(5)	研修科目	下刈り・除伐 下刈り・除伐技術	区分	実習
背景と目的	下刈り・除伐の基礎技術を理解する。				
科目内容	1年～15年生の造林地等で刈払機、チェーンソーを使用し施業方法を学ぶ。				
日程	7月～3月(15日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
B-2-(4)	下刈り(準備)	①下刈りの手順 ②蜂、熱中症対策	3	耳川広域 森林組合	美郷町 周辺
B-2-(4)	下刈り(実施)	①刈り払い機操作、目立て ②全刈り、坪刈り	51	耳川広域 森林組合	
B-2-(5)	除伐(準備)	①除伐の手順 ②蜂、熱中症対策	6	耳川広域 森林組合	
B-2-(5)	除伐(実施)	①機械操作 ②除伐	28.5	耳川広域 森林組合	
		計	88.5		
到達目標	保育(下刈り、除伐事業)技術を理解するとともに、現場実習で安全かつ確実に施業できる技術を習得する。				
評価方法	実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。 講師・職員が研修生の習得度(機械操作、安全確認、施業技術)を評価する。				
評価基準	実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価) 講師・職員が研修生の習得度を5段階で評価する。				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼 研修生:チェーンソー、刈払機、雨具、長靴、防護着、ヘルメット、防振手袋、水分、エピペン(アレルギー陽性者)、緊急連絡網				
関連講習	A-3-(2):造林・育林(座学) C-1-(3):造林作業指揮者 C-1-(4):刈払機特別教育 C-1-(5):伐木・チェーンソー特別教育				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	実習の場合:「実習状況の観察」は主に「集中度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 26

研修コード	B-2-(6)	研修科目	間伐 間伐技術	区分	実習
背景と目的	現地での実習を通じて、間伐の基礎技術や現場管理方法について理解する。				
科目内容	林齢16年生以上の人工林でチェーンソーや林業機械を使用し、森林を整える間伐方法を学ぶ。				
日程	9月～3月（4日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	準備	・間伐の手順 ・蜂対策等	6	耳川広域森林組合 ヤマサツリー ファーム	美郷町 周辺
2	保育間伐	・選木、伐採 ・片付	6	耳川広域森林組合 ヤマサツリー ファーム	
3	利用間伐	・選木、伐採 ・集積、片付	6	耳川広域森林組合 ヤマサツリー ファーム	
4	現場管理	・現場管理(着工前後、日報) ・プロット調査	6	耳川広域森林組合 ヤマサツリー ファーム	
		計	24		
到達目標	現地での実習を通じて、間伐の基礎技術や現場管理方法技術を習得する。				
評価方法	実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。 講師・職員が研修生の習得度（機械操作、安全確認、施業技術）を評価する。				
評価基準	実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価） 講師・職員が研修生の習得度を5段階で評価する。				
テキスト	講師に依頼 チェーンソー作業の安全ナビ、大径材伐採・搬出マニュアル				
教育機材	講師に依頼 研修生：チェーンソー、雨具、長靴、防護着、ヘルメット、防振手袋、水分、エピペン（アレルギー陽性者）、緊急連絡網				
関連講習	A-3-(2)：造林・育林（座学） C-1-(4)：刈払機特別教育 C-1-(5)：伐木・チェーンソー特別教育				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	実習の場合：「実習状況の観察」は主に「集中度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 27

研修コード	A-4-(1)-①	研修科目	労働安全 労働安全衛生	区分	座学
背景と目的	林業労働安全に基礎知識や労働災害防止のための活動を理解する。				
科目内容	安全管理の意識を高めるため、林業労働災害の現状や安全運転の重要性等を学び、労働災害等の発生する原因について理解し対策を学ぶ。				
日程	10月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	林業労働災害の現状	林業における労働災害の現状と課題	3	労働基準 監督署	林業技術 センター
2	国有林の安全管理	林業における労働災害、労働災害の原因分析、安全管理の方法	3	森林管理署	中研修室
		計	6		
到達目標	林業労働安全に基礎知識や労働災害防止のための安全管理方法を理解する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：筆記具				
関連講習	短期課程・リーダー養成課程と共催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 28

研修コード	A-4-(1)-②	研修科目	労働安全 交通安全	区分	座学
背景と目的	交通安全に関する基礎知識や法令遵守等の意義を理解する。				
科目内容	安全管理の意識を高めるため、交通安全の現状や安全運転の重要性等を学ぶ。法令順守の意義を学ぶ。				
日程	4月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	交通安全	交通事故・違反の状況、安全運転の心得など	3	日向警察署	林業技術センター
		計	3		
到達目標	交通安全に関する基礎知識や法令遵守等の意義を理解し運転技術を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	講師に依頼	研修生：筆記具			
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 29

研修コード	A-4-(2)	研修科目	伐木造材・集材運材 安全な伐木造材・集材運材技術	区分	座学
背景と目的	安全な伐採、造材方法の基礎知識を理解する。				
科目内容	伐木造材の基礎知識と現場実習に向けた安全な作業方法を学ぶ。				
日程	10月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	伐木造材の基礎知識	・伐採の基礎 ・チェーンソーの基礎	1.5	事業者	林業技術センター
2	集材運材の基礎知識	・集材・運材の基礎 ・林業機械の基礎	1.5	事業者	中研修室
		計	3		
到達目標	安全な伐採、造材方法の基礎知識を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	チェーンソー作業の安全ナビ、車両系木材搬出機械安全マニュアル、 集材機運転者安全必携				
教育機材	講師に依頼 パソコン、プロジェクター 研修生：筆記具				
関連講習	C-1-(6)：伐木機械等運転、C-1-(8)：機械集材機械運転、C-1-(9)：走行集材機械運転、 C-1-(10)：簡易架線集材装置運転				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 30

研修コード	B-3-(1) B-3-(2)	研修科目	伐木・造材・集材・運材	区分	実習
背景と目的	安全な伐採、造材、集材、運材の基礎技術を理解する。				
科目内容	伐木造材の基礎、チェーンソー、高性能林業機械技術の安全操作の基礎技術、有利な伐採搬出を学ぶ。				
日程	9月～3月（40日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
(1)-①	伐木造材の技術習得	①チェーンソー操作 ②大径材、かかり木処理 ③風倒木処理	114	耳川広域森林 組合、事業体	美郷町 周辺
(1)-②	儲かる採材技術の習得	採材の基礎	12	耳川広域森林 組合、事業体 外	
(2)-①	高性能林業機械による集 運材	①スイングヤード設置・運転・撤収、 グラブプル運転等 ②フォワード運転等 ③作業計画書作成及びリスクアセスメ ント	66	耳川広域森林 組合、事業体	
(2)-②	集材技術	林業架線等設置、運転、撤収	42	耳川広域森林 組合、事業体	
		計	234		
到達目標	安全な伐採、造材、集材、運材の基礎技術や高性能林業機械操作技術及び有利な採材技術を習得する。				
評価方法	実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。 講師・職員が研修生の習得度（機械操作、安全確認、施業技術）を評価する。				
評価基準	実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価） 講師・職員が研修生の習得度を5段階で評価する。				
テキスト	チェーンソー作業の安全ナビ、車両系木材搬出機械安全マニュアル、 集材機械運転者安全必携、機械集材装置運転業務従事者必携				
教育機材	講師に依頼 県：伐倒練習用丸太固定装置、風倒木処理装置 研修生：チェーンソー、燃料、 チェーンオイル、防護服、ヘルメット、防振手袋、フェリングレバー、チルホール等				
関連講習	A-4-(2)：伐木造材・集材運材（座学）、C-1-(5)：伐木チェーンソー特別教育、 C-1-(6)：伐木機械等運転、C-1-(8)：機械集材機械運転、 C-1-(9)：走行集材機械運転、C-1-(10)：簡易架線集材装置運転				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	実習の場合：「実習状況の観察」は主に「集中度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 31

研修コード	A-4-(3) B-3-(3)	研修科目	森林作業道	区分	座学 実習
背景と目的	効率的な森林路網のネットワークづくりを理解する。				
科目内容	林業経営に必要な森林路網に関する基礎知識及び現場実習に必要な知識を学ぶ。				
日程	6月(2日間)、10月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-4-(3)	森林路網について	①森林路網の基礎 ②森林作業道開設の基礎	3	森林経営課	林業技術 センター
B-3-(3)-①	森林作業道の計画	踏査、線形決定、測量技術	6	(一社) 宮崎県治山 林道協会	
B-3-(3)-②	森林作業道開設技術の 習得	開設の実践	6	事業体外	美郷町 周辺
		計	15		
到達目標	効率的な森林路網のネットワークづくりや開設技術を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	森林経営課森林路網担当作成資料、林道規定、宮崎県作業道等開設基準、 宮崎県林道専用道作設指針、宮崎県森林作業道作設指針				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、ヘルメット				
関連講習	短期課程と一部共催 (B-3-(3)-②) A-2-(3)・B-1-(1)：森林測量				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、 「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 32

研修コード	A-4-(4) B-3-(4)	研修科目	低コスト作業システム	区分	座学 実習
背景と目的	低コスト作業システムや一貫作業システム技術を理解する。				
科目内容	林業経営に必要な、現場条件にあった作業システムを理解する。				
日程	10月(1日間)、12月(1日間)、1月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A	作業システム概論	作業システムについて	3	林業技術 センター	林業技術 センター
B-①	一貫作業システム実習	一貫作業システムの実践	6	森林組合 事業体	現地
B-②	低コスト作業システム 実習	低密度植栽、 下刈作業の省力化	6	森林管理署 事業体	
		計	15		
到達目標	低コスト作業システムを理解するとともに、一貫作業システム作業技術を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料、環境に配慮した効率的な高性能林業機械の作業システム指針				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、ヘルメット				
関連講習	短期課程・経営高度化課程と共催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 33

研修コード	A-4-(5) B-3-(5)	研修科目	林業道具学	区分	座学 実習
背景と目的	林業用道具の手入れと使用方法を理解する。				
科目内容	実際に林業用道具を使い、管理の方法と正しい使い方を学ぶ。				
日程	7月～9月（3日間）、3月（2日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A	林業用道具について	・管理の方法について ・正しい使用の習得について	3	川戸緑	林業技術 センター
B-①	鋸、鉋等の取扱	・正しい使い方 ・日常の手入れ	3	川戸緑 他	林業技術 センター
B-②	ワイヤーロープ取扱	・ワイヤーの使い方 ・アイスプライス等 ・必要に応じて実技試験実施	24	川戸緑 他	
		計	30		
到達目標	林業用道具の手入れ技術や使用方法を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポート、実技成果品の確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポート、実技成果品の内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：チェーンソー、ワイヤーロープ、鋸、鉋				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 34

研修コード	A-4-(6) B-3-(6)	研修科目	林業機械メンテナンス	区分	座学 実習
背景と目的	林業機械の仕組みとメンテナンスの基礎知識を理解する。				
科目内容	林業で使用する林業機械を知り、機械のメンテナンスの基礎を学ぶ。				
日程	7月(2日間)、11月(1日間)、3月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-4-(6)	林業機械について	・林業機械の基礎 ・高性能林業機械	6	林業機械 メーカー	林業技術 センター
B-3-(6)	チェーンソー等の点検整備	・林業機械の構造 ・機械のメンテナンス方法	12	林業機械 メーカー	林業技術 センター
B-3-(6)	高性能林業機械のメンテナ ンス	日常点検、バッテリー点検	6	林業労働機械化 センター	
		計	24		
到達目標	高性能林業機械（プロセッサ、グラップル・フォワーダ）の仕組みとメンテナンスの基礎知識及び技術を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	講師に依頼 高性能林業機械一式 研修生：チェーンソー、刈払機				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 35

研修コード	A-5-(1)、(2)	研修科目	森林病虫害、鳥獣被害対策	区分	座学
背景と目的	森林保護（森林病虫害、鳥獣対策、狩猟）に関する基礎知識を理解する。				
科目内容	森林病虫害や鳥獣被害対策について学ぶ。				
日程	5月（1日間）、6月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-5-(1)	森林病虫害について	・森林病虫害の基礎 ・病虫害の防除方法	3	林業技術 センター	林業技術 センター
A-5-(2)	鳥獣被害対策・狩猟 について	・鳥獣被害対策の現状 ・狩猟免許について	6	自然環境課、 猟友会会長 黒田一弥	林業技術 センター
		計	9		
到達目標	森林保護（森林病虫害、鳥獣対策、狩猟）に関する基礎知識と防除方法を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	樹木診断の手引き、狩猟読本				
教育機材	講師に依頼 研修生：筆記具				
関連講習	C-1-(15)：猟免許（わな猟）、C-1-(16)：鳥獣被害マイスター				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 36

研修コード	A-6	研修科目	災害に強い森林づくり	区分	座学
背景と目的	災害に強い森林づくりの基礎知識を理解する。				
科目内容	森林の多面的機能の一つである災害防止機能を発揮する森林づくりを学ぶ。				
日程	6月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間(h)	講師	研修場所
1	森林の多面的機能について	①森林の多面的機能について	3	林業技術センター/ 宮崎大学	林業技術センター
2	災害に強い森林づくりについて	②災害に強い森林づくりについて	3	林業技術センター/ 宮崎大学	林業技術センター
		計	6		
到達目標	災害に強い森林づくりの基礎知識を習得する。				
評価方法	受講状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：筆記具				
関連講習	A-3-(1)・B-2-(1)：森林生態・樹木学				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学の場合：「受講状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 37

研修コード	A-7-(1)、(2) B-4-(1)-①	研修科目	木材加工、木材流通 製材加工	区分	座学 実習
背景と目的	木材の加工技術・利用方法に関する基礎を理解する。				
科目内容	木材の特性と製品の種類と加工工程を学ぶ 木材流通と木材利用の仕組みを学ぶ				
日程	6月（1日間）、7月（1日間）、10月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-7-(1)	木材加工	木材加工の方法・利用開発	3	木材利用技術 センター	木材利用技術 センター
A-7-(2)	木材流通	木材流通の現状と課題	4.5	山村木材 振興課外	林業技術 センター
B-4-(1)-①	木材利用の現場	木材市場、製材工場、 住宅会社等見学	12	中国木材外	現地
		計	19.5		
到達目標	木材の加工技術・利用方法や木材市場、製材工場の現状や課題を理解する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、ヘルメット、筆記具				
関連講習	短期課程と共催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、 「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 38

研修コード	B-4-(1)-②	研修科目	製材・加工実習	区分	実習
背景と目的	原木丸太を製材品に加工する木材加工技術の仕組みついて理解する。				
科目内容	木材加工の流通の現状を理解し加工技術について学ぶ。				
日程	6月（2日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	製材・加工実習	製材工場、加工技術の習得	12	耳川広域 森林組合	諸塚村外
		計	12		
到達目標	原木丸太を製材品に加工する木材加工の仕組み、製材・加工技術を習得する。				
評価方法	実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	耳川広域森林組合の作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、ヘルメット、手袋、耳栓、メガネ				
関連講習	短期課程と共催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	実習の場合：「実習状況の観察」は主に「集中度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 39

研修コード	B-5-(1)	研修科目	しいたけ生産	区分	実習
背景と目的	本県の代表的な特用林産物である「乾しいたけ」栽培の基礎を理解する。				
科目内容	しいたけ生産の現状と栽培技術を学ぶ				
日程	11月(4日間)、2月(4日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間(h)	講師	研修場所
B-5-(1)	乾しいたけ栽培	伐採、駒打ち、本伏せなど	48	林業技術センター 指導林家	現地
		計	48		
到達目標	本県の代表的な特用林産物である「乾しいたけ」栽培の基礎知識、技術を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	しいたけ生産技術指針				
教育機材	講師に依頼 研修生：チェーンソー、防護服、ヘルメット、防振手袋、雨具				
関連講習	経営高度化課程と共催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 40

研修コード	A-8-(2) B-5-(2)	研修科目	木炭生産	区分	座学 実習
背景と目的	本県の代表的な特用林産物である「木炭」生産の基礎を理解する。				
科目内容	木炭生産の現状と栽培技術を学ぶ				
日程	1月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
A-8-(2)	木炭生産	木炭生産の現状、課題	3	林業技術 センター	林業技術 センター
B-5-(2)	木炭生産	木炭生産技術	3	林業技術 センター 指導林家	林業技術 センター
		計	6		
到達目標	本県の代表的な特用林産物である「木炭」生産技術の基礎を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	木炭生産指導指針				
教育機材	講師に依頼 研修生：チェーンソー、防護服、ヘルメット、防振手袋				
関連講習	経営高度化課程と共催				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 41

研修コード	A-9-(1)-①、② B-6-(1)-①	研修科目	試験研究 (林業技術センター)	区分	座学 実習
背景と目的	最新の試験研究(林業)に関する基礎を理解し、試験研究を通じて森林林業を理解する。				
科目内容	最新の林業技術の試験研究を学ぶ。				
日程	5月(2日間)、6月(2日間) 2月(4日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	育林環境技術(座学)	最新の育林環境技術(UAV等)	6	林業技術センター	林業技術センター
2	森林資源開発(座学)	最新の森林資源開発、特用林産技術	12	林業技術センター	林業技術センター
3	林業技術センターの試験研究(実習)	育林環境部試験研究(UAV等)	3	林業技術センター	林業技術センター
4	林業技術センターの試験研究(実習)	資源開発試験研究	24	林業技術センター	林業技術センター
		計	45		
到達目標	最新の試験研究(育林環境技術や森林資源開発技術)に関する基礎知識を習得し、試験研究を通じて森林・林業を理解し、生産技術を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	林業技術センター作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、ヘルメット、手袋、雨具、剪定ハサミ				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合：「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 42

研修コード	A-9-(1)-③ B-6-(1)-②	研修科目	試験研究 (木材利用技術センター)	区分	座学 実習
背景と目的	最新の試験研究(木材)に関する基礎を理解し、試験研究を通じて木材の特性を理解する。				
科目内容	最新の木材利用加工技術の試験研究(木材材料開発、木材加工)を学ぶ。				
日程	6月(3日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	研究概要①(座学)	木材利用技術センターが行っている研究の全体概要	3	木材利用技術センター	木材利用技術センター
2	材料開発試験(座学)	木材の材質評価及び耐久性評価	3	木材利用技術センター	木材利用技術センター
3	木材加工試験(座学)	木材の乾燥及び丸太内の強度分布	3	木材利用技術センター	木材利用技術センター
4	構法開発試験(座学)	木構造(壁、接合部)の強度評価	3	木材利用技術センター	木材利用技術センター
5	木材利用技術(実習)	木材材料開発及び木材加工試験研究、工場視察	3	木材利用技術センター	木材利用技術センター
		計	15		
到達目標	最新の試験研究(木材)に関する基礎知識を習得し、試験研究を通じて木材の特性や利用技術を習得する。				
評価方法	受講・実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	受講・実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。 (3段階評価)				
テキスト	木材利用技術センター作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生:作業着、ヘルメット、メガネ、手袋、筆記具				
関連講習	A-7(林産)				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	座学・実習の場合:「受講・実習状況の観察」は主に「集中度」、「理解度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 43

研修コード	B-7-(1)-①、②	研修科目	先進地視察	区分	実習
背景と目的	先進地の林業に関する知識や技術を理解し、即戦力として、また、将来のリーダーとしての視野を広げる。				
科目内容	県内の先進地を視察し、本県林業のあるべき姿を学ぶ。				
日程	7月(2日間)、9月～10月(2日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間(h)	講師	研修場所
1	宮崎県内の先進林業	・低コストの作業システムと造林・育林技術(県北の林業) ・木材加工流通(県南の林業における木材輸出や木材加工)	24	林業技術センター、諸塚駐在所外、南那珂森林組合、森林管理署等	椎葉、諸塚、南那珂(志布志港外)
		計	24		
到達目標	先進地の林業に関する知識や生産技術を習得し、即戦力として、将来のリーダーとしての視野を広げる。				
評価方法	実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。(3段階評価)				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、ヘルメット等				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	実習の場合：「実習状況の観察」は主に「集中度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 44

研修コード	A-10-(1) B-8-(1)	研修科目	インターンシップ	区分	座学 実習
背景と目的	林業事業体の仕事を体験し、林業で働くイメージを理解する。				
科目内容	林業事業体等での就業体験を通じ、林業へのイメージをつかみ、就業先選択に活かす。				
日程	6月（1日間）、9月（1日間）、11月（5日間）、1月（5日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
1	事業体調査・発表	(インターン面談、受入先調、面談、説明会) 研修成果報告	6	林業技術センター	林業技術センター
2	インターンシップⅠ	就業体験	30	事業体	現地
3	インターンシップⅡ	就業体験	30	事業体	現地
4	就業説明会	就業ガイダンスへの参加	6	林業関係3団体	指定会場
		計	72		
到達目標	林業事業体等の仕事を体験し、林業で働くイメージを構築し林業分野に就業する。				
評価方法	実習状況の観察、研修レポートの確認による評価とする。				
評価基準	実習状況の観察、研修レポートの内容が到達目標を達成していること。（3段階評価）				
テキスト	講師による作成資料				
教育機材	講師に依頼 研修生：受入林業事業体と調整し機材を準備する。 (チェーンソー、下刈機、燃料、防護服、ヘルメット、防振手袋等)				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	実習の場合：「実習状況の観察」は主に「集中度」、「習熟度」を確認				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 45

研修コード	C-1-(1)	研修科目	赤十字救命法救命員 救命措置に関する講習	区分	資格
背景と目的	救命措置及び応急処置に関する知識技術の理解する。				
科目内容	赤十字救急法による講習会を受講する。				
日程	8月（4日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	赤十字救急法	救命処置、応急手当等	24	日本赤十字社	林業技術 センター 中研修室
		計	24		
到達目標	救命措置及び応急処置に関する知識と技術をマスターし、認定証を習得する。				
評価方法	赤十字緊急法に基づく一次救命措置と手当の基本と応急手当の実技試験による赤十字救急法救命員認定証を確認することにより評価とする。				
評価基準	実技試験により赤十字救急法救命員認定証を取得すること。				
テキスト	講師に依頼				
教育機材	講師に依頼 研修生：作業着、筆記具				
関連講習	A-4-(1):労働安全衛生				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	日本赤十字社宮崎県支部（0985-22-4045）				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 46

研修コード	C-1-(2)	研修科目	林業用種苗生産者 林業種苗生産技術者講習会	区分	資格
背景と目的	林業種苗生産事業者へ登録することができる講習会を受講し、苗木生産を理解する。				
科目内容	林業種苗生産事業者に登録することが可能になる講習会を受講する。				
日程	2月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	種苗に関する法令	林業種苗法など法令に関すること	2	森林経営課 森林整備担当	林業技術 センター
②	苗の産地及び系統に関する事項	苗の産地、品種などに関すること	2		
③	種苗の生産技術に関する事項	苗木を生産するための技術に関すること	2		
		計	6		
到達目標	林業種苗生産事業者へ登録することができる講習会を修了し証明書を取得する。				
評価方法	林業用種苗生産事業者講習修了証明書を確認することによる評価とする。				
評価基準	林業用種苗生産事業者講習修了証明書を取得すること。				
テキスト	主催者が準備(講習会テキスト(林業種苗の生産・配布に必要な知識)ほか)				
教育機材	主催者が準備		研修生:筆記具		
関連講習	A-3-(3)・B-2-(2):苗木生産				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	【受講申込先】宮崎県森林経営課森林整備担当(0985-26-7158) 受講申込書(収入印紙貼り付け有り)を森林経営課に送付。 受講後、手続きを行うことで、林業種苗生産事業者の登録を受けることが可能。				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 47

研修コード	C-1-(3)	研修科目	造林作業指揮者 造林指揮者特別講習	区分	資格
背景と目的	林業における下刈り、地拵え等の造林作業における安全の確保と健康障害の防止を図るために必要な知識等を理解する。				
科目内容	造林作業を指揮する者として、必要な知識等を、厚労省通達則に基づく安全衛生教育の受講する。				
日程	9月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	造林作業に関する知識	作業の一般的注意事項、 手工具の取扱い、刈払機等の取 扱い、作業の進め方	2	林災防	林業技術 センター
②	刈払機等に関する知識	刈払機等の選択及び点検 刈刃等の目立てと整備	2	林災防	
③	振動障害に関する知識	振動障害の原因と症状 及び予防等	1	林災防	
④	関係法令等	法、施行令及び安全衛生規則中 の関係条項、労働災害の現状	1.5	林災防	
		計	6.5		
到達目標	林業における下刈り、地拵え等の造林作業における安全の確保と健康障害の防止法を理解し、造林事業指揮者等安全衛生教育修了証を取得する。				
評価方法	造林作業指揮者等安全衛生教育修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	造林作業指揮者等安全衛生教育修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（造林作業安全衛生実務必携）				
教育機材	主催者が準備 研修生：作業着、ヘルメット、筆記具				
関連講習	A-3・B-2：造林				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	【受講申込先】 林業・木材産業労働災害防止協会宮崎県支部(0985-24-7930) 受講申込書を林災防に送付。精算は受講後。 修了証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 48

研修コード	C-1-(4)	研修科目	刈払機取扱作業者 刈払機特別教育	区分	資格
背景と目的	刈払機を使用する作業の安全を確保し、かつ、刈払機取扱作業者に対する振動障害を防止するため、必要な知識や安全衛生教育を理解する。				
科目内容	刈払機を使用する作業に従事する者として、必要な知識等を習得し、厚労省通達則に基づく安全衛生教育を受講する。				
日程	5月（1日間）				
研修番号		講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	刈払機を使用するために必要な知識を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刈払機の構造、機能の概要 ・ 刈払機の選定 ・ 振動障害 ・ 関係法令 など（学科） 	6	林災防	林業技術センター
②	刈払機の作業等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刈払機の取扱い ・ 作業の方法 ・ 点検・整備の方法 	1	林災防	現地
		計	7		
到達目標	刈払機を使用する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、厚労省通達則に基づく安全衛生教育を受講し、修了証を取得する。				
評価方法	刈払機取扱作業者安全衛生教育修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	刈払機取扱作業者安全衛生教育修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（刈払機作業者に対する安全衛生教育テキスト）				
教育機材	主催者が準備 研修生：筆記具				
関連講習	A-3・B-2：造林				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	<p>【受講申込先】 林業・木材産業労働災害防止協会宮崎県支部(0985-24-7930)</p> <p>受講申込書を林災防に送付。精算は受講後。</p> <p>修了証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。</p>				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 49

研修コード	C-1-(5)	研修科目	伐木・チェーンソー作業従事者 伐木・チェーンソー作業従事者特別 教育	区 分	資 格
背景と目的	チェーンソーを使用する作業の安全を確保するための必要な知識を理解する。				
科目内容	チェーンソーを使用する作業に従事する者として、必要な知識等を、厚労省通達則に基づく労働安全衛生規則の特別教育を受講する。				
日 程	5月（3日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講 師	研修場所
1	チェーンソーを使用するために必要な知識を習得する。	・伐採するための基礎知識 ・振動障害の原因及び症状並びに予防措置 ・チェーンソーの構造・取扱方法（学科）	9	林災防	林業技術センター
2	チェーンソーを使用し、伐木に必要な技能を習得する。	・大径木、偏心木の伐採方法 ・かかり木の処理（実技）	9	林災防	林業技術センター
		計	18		
到達目標	チェーンソーを使用する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、厚労省通達則に基づく労働安全衛生規則の特別教育を受講し、修了証を取得する。				
評価方法	伐木等特別教育を確認することによる評価とする。				
評価基準	伐木等特別教育修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（チェーンソー作業の安全ナビ）				
教育機材	主催者が案内で指定（チェーンソー、防護服、防振手袋、ヘルメット、燃料1式など） 研修生：チェーンソー、防護服、防振手袋、ヘルメット、燃料1式など				
関連講習	A-4-(2)・B-3-(1)：伐木・造材				
担 当 者	管理・林業大学校研修課職員				
備 考	【受講申込先】林業・木材産業労働災害防止協会宮崎県支部(0985-24-7930) 受講申込書を林災防に送付。精算は受講後。 修了証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 50

研修コード	C-1-(6)	研修科目	伐木機械等運転 伐木等機械の運転業務に関する特別教育	区分	資格
背景と目的	伐木等機械（ハーベスタ、プロセッサ、グラップルソー）の走行、作業、運転などに必要な特別教育を修了する。				
科目内容	伐木等機械の運転業務に従事する者として必要な知識等を、厚労省通達則に基づく安全衛生教育を受講する。				
日程	6月（2日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間（h）	講師	研修場所
①	伐木等機械を運転するために必要な知識を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 伐木等機械に関する知識 機械の走行、装置の構造及び取扱いの方法に関する知識 機械の作業に関する知識 機械の運転に必要な一般的事項に関する知識 関係法令（座学） 	6	林災防	林業技術センター
②	伐木等機械を運転するために必要な技能を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 機械の走行の操作 作業のための装置の操作（実技） 	6	林災防	林業技術センター
		計	12		
到達目標	伐木等機械を使用する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、厚労省通達則に基づく労働安全衛生規則の教育を受講し、修了証を取得する。				
評価方法	伐木等機械運転特別教育修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	伐木等機械運転特別教育修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（車両系木材伐出機械安全マニュアル）				
教育機材	主催者が案内で指定（作業着、手袋、ヘルメット、燃料1式など） 研修生：作業着、手袋、ヘルメット、燃料1式など				
関連講習	A-4・B-3：林業機械		他講習受講で時間免除あり		
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	<p>【受講申込先】 林業・木材産業労働災害防止協会宮崎県支部(0985-24-7930)</p> <p>受講申込書を林災防に送付。精算は受講後。</p> <p>修了証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。</p>				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 51

研修コード	C-1-1(7)	研修科目	玉掛け技能 玉掛け技能講習(学科実技)資格取得	区分	資格
背景と目的	玉掛け業務(つり具を用いて荷を掛けたり外したりする作業)の技能講習を修了する。				
科目内容	労働安全衛生法で定めた玉掛け業務を使用する業務に就くために必要な技能講習を受講する。				
日程	8月(3日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間(h)	講師	研修場所
1	玉掛け業務に必要な知識を習得する。	・クレーン等に関する知識 ・玉掛けに必要な力学に関する知識 ・クレーン等の玉掛けの方法 ・関係法令(学科)	12	林業労働機械化センター	林業技術センター
2	玉掛け業務に必要な技能を習得する。	・玉掛けの基本、応用作業 ・安全のための合図	2	林業労働機械化センター	林業技術センター
2	玉掛け業務に必要な技能を習得する。	・玉掛けの操作実技	5	林業労働機械化センター	林業技術センター
		計	19		
到達目標	玉掛け業務(つり具を用いて荷を掛けたり外したりする作業)の技能講習を受講し、修了証を取得する。				
評価方法	玉掛け技能講習修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	玉掛け技能講習修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備(技術講習用テキスト 玉掛け作業者必携)				
教育機材	主催者が案内で指定(手袋、ヘルメット、安全靴) 研修生:手袋、ヘルメット、安全靴				
関連講習	A-4・B-3:林業機械		他講習受講で時間免除あり		
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	林業作業士研修と合同で実施。受講申込書を機械化センターに送付。 小型移動式クレーンを崎に実施する(受講時間免除有り)、精算は受講後。 資格証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。 (公社)宮崎県林業労働機械化センター(0985-29-6008)				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 52

研修コード	C-1-(8)	研修科目	機械集材装置運転 機械集材装置の運転業務に関する特別教育	区分	資格
背景と目的	機械集材機械の運転業務に係る特別教育を修了する。				
科目内容	労働安全衛生法で定めた機械集材機械の運転業務に就くために必要な特別教育を受講する。				
日程	8月(2日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間(h)	講師	研修場所
①	集材機械を運転するために必要な知識を習得する。	・機械集材装置に関する知識 ・ワイヤーロープに関する知識 ・関係法令 (学科)	6	林災防	林業技術センター
②	集材機械を運転するために必要な技能を習得する。	・機械集材装置の基本操作、応用運転 ・ワイヤーロープの取扱い (実技)	8	林災防	林業技術センター
		計	14		
到達目標	機械集材装置を使用する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、厚労省通達則に基づく特別教育を受講し、修了証を取得する。				
評価方法	機械集材装置運転特別教育修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	機械集材装置運転特別教育修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備 (集材機械運転者安全必携)				
教育機材	主催者が案内で指定 (防護服、防振手袋、ヘルメット、燃料1式など) 研修生：防護服、防振手袋、ヘルメット、燃料1式など				
関連講習	A-4・B-3：林業機械				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	【受講申込先】 林業・木材産業労働災害防止協会宮崎県支部(0985-24-7930) 受講申込書を林災防に送付。精算は受講後。 修了証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 53

研修コード	C-1-(9)	研修科目	走行集材機械運転 走行集材機械の運転業務に関する特別教育	区分	資格
背景と目的	走行集材機械（フォワーダ、スキッダ等）の運転業務に係る特別教育を修了する。				
科目内容	労働安全衛生法で定めた走行集材機械の運転業務に就くために必要な特別教育を受講する。				
日程	6月（2日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間（h）	講師	研修場所
①	走行集材機械を運転するために必要な知識を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走行集材機に関する知識 ・ 機械の走行、装置の構造及び取扱いの方法に関する知識 ・ 走行集材機の作業に関する知識 ・ 走行集材機の運転に必要な一般的事項に関する知識 ・ 関係法令（学科） 	6	林災防	林業技術センター
②	走行集材機械を運転するために必要な技能を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走行集材機械の走行の操作 ・ 走行集材機の作業のための装置の操作（実技） 	6	林災防	林業技術センター
		計	12		
到達目標	走行集材機械を使用する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、厚労省通達則に基づく特別教育の受講し、修了証を取得する。				
評価方法	走行集材機械運転業務特別教育修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	走行集材機械運転業務特別教育修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（車両系木材搬出機械安全マニュアル）				
教育機材	主催者が案内で指定（作業着、手袋、ヘルメット、燃料1式など） 研修生：作業着、ヘルメット、手袋				
関連講習	A-4・B-3：林業機械		他講習受講で時間免除あり		
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	<p>【受講申込先】 林業・木材産業労働災害防止協会宮崎県支部(0985-24-7930)</p> <p>受講申込書を林災防に送付。精算は受講後。</p> <p>修了証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。</p>				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 54

研修コード	C-11-(10)	研修科目	簡易架線集材装置運転 簡易架線集材装置の運転業務に関する特別教育	区分	資格
背景と目的	簡易架線集材装置（スイングヤーダ、タワーヤーダ、木寄せウィンチなど）の運転業務に係る特別教育を修了する。				
科目内容	労働安全衛生法で定めた簡易架線集材装置の運転業務に就くために必要な特別教育を受講する。				
日程	6月（2日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間（h）	講師	研修場所
①	簡易架線集材装置を運転するために必要な知識を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 集材機等に関する知識 機械の走行、装置の構造及び取扱いの方法に関する知識 集材機等の作業に関する知識 集材機等の運転に必要な一般的事項に関する知識 関係法令（座学） 	6	林災防	林業技術センター
②	簡易架線集材装置を運転するために必要な技能を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 機械の走行の操作 ワイヤーロープの取扱い（実技） 	8	林災防	林業技術センター
		計	14		
到達目標	簡易架線機械を使用する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、厚労省通達則に基づく特別教育の受講し、修了証を取得する。				
評価方法	簡易架線集材装置等運転特別教育修了証を確認することにより評価する。				
評価基準	簡易架線集材装置等運転特別教育修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（車両系木材搬出機械安全マニュアル）				
教育機材	主催者が案内で指定（作業着、手袋、ヘルメット、燃料1式など） 研修生：作業着、ヘルメット、手袋				
関連講習	A-4・B-3：林業機械	他講習受講で時間免除あり			
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	<p>【受講申込先】 林業・木材産業労働災害防止協会宮崎県支部(0985-24-7930)</p> <p>受講申込書を林災防に送付。精算は受講後。</p> <p>修了証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。</p>				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 55

研修コード	C-1-(11)	研修科目	小型移動式クレーン運転 小型移動式クレーン運転技能講習	区分	資格
背景と目的	小型移動式クレーン（つり上げ荷重1t以上5t未満の移動式クレーン）運転の技能講習を修了する。				
科目内容	労働安全衛生法で定めた小型移動式クレーンを使用する業務に就くために必要な技能講習を受講する。				
日程	7月（3日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	小型移動式クレーン運転に必要な知識を習得する。	・小型移動式クレーンに関する知識 ・原動機及び電気に関する知識 ・運転に必要な力学に関する知識 ・関係法令 (座学)	13	林業労働機械化センター	林業技術センター
②	小型移動式クレーン運転に必要な技能を習得する。	・小型移動式クレーンの運転 ・運転のための合図 (実技)	7	林業労働機械化センター	林業技術センター
		計	20		
到達目標	小型移動式クレーンを使用する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、技能講習を受講し、修了証を取得する。				
評価方法	小型移動式クレーン運転技能講習修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	小型移動式クレーン運転技能講習修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（技能講習用 小型移動式クレーンの運転）				
教育機材	主催者が案内で指定（手袋、ヘルメット、安全靴） 研修生：作業着、ヘルメット、手袋				
関連講習	短期課程の研修（林業作業士養成研修）と共催、A-4・B-3：林業機械				
担当者	管理・林業大学校研修課職員	他講習受講で時間免除あり			
備考	林業作業士研修と合同で実施。受講申込書を機械化センターに送付。 精算は受講後。 資格証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。 (公社) 宮崎県林業労働機械化センター (0985-29-6008)				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 56

研修コード	C-1-(12)	研修科目	不整地運搬車運転 不整地運搬車運転技能講習	区分	資格
背景と目的	不整地運搬車（労働安全衛生規則において車両系荷役運搬機械等）の技能講習を修了する。				
科目内容	労働安全衛生法で定めた不整地運搬車を使用する業務に就くために必要な技能講習を受講する。				
日程	9月（2日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	運搬車運転に必要な知識を習得する。	・ 荷の運搬に関する知識 ・ 力学に関する知識 ・ 関係法令 (座学)	7	林業労働機械化センター	林業技術センター
②	運搬に必要な運転技能を習得する。	荷の運搬（実技）	4	林業労働機械化センター	林業技術センター
		計	11		
到達目標	不整地運搬車を使用する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、技能講習を受講し、修了証を取得すること。				
評価方法	不整地運搬車運転技能講習修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	不整地運搬車運転技能講習修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（不整地運搬車運転者教本）				
教育機材	主催者が案内で指定（防振手袋、ヘルメット、安全靴） 研修生：作業着、ヘルメット、手袋				
関連講習	短期課程の研修（林業作業士養成研修）と共催、A-4・B-3：林業機械				
担当者	管理・林業大学校研修課職員		他講習受講で時間免除あり		
備考	林業作業士研修と合同で実施。受講申込書を機械化センターに送付。 車両系建設機械を先に実施する（受講時間免除有り）。精算は受講後。 資格証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。 (公社) 宮崎県林業労働機械化センター (0985-29-6008)				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 57

研修コード	C-1-(13)	研修科目	はい作業従事者 はい作業従事者特別教育	区分	資格
背景と目的	はい作業従事者特別教育を理解し修了する。				
科目内容	厚労省通達による安全衛生教育				
日程	7月(1日間)				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	はい作業安全衛生教育	木材等の積み上げや崩す作業の 研修	6	村田俊澄 (延岡市 センコーOB)	林業技術 センター
		計	6		
到達目標	荷役運搬機械等によるはい作業従事者の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、荷役運搬機械等によるはい作業従事者安全教育修了証を取得する。				
評価方法	荷役運搬機械等によるはい作業従事者安全教育修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	荷役運搬機械等によるはい作業従事者安全教育修了証を取得すること。				
テキスト	林業大学校で準備 (はい作業安全必携)				
教育機材	講師による準備 研修生：筆記具				
関連講習	A-4・B-3：林業機械				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	講師を依頼する。 資格証は、センターで作成し配布する。				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 58

研修コード	C-1-(14)	研修科目	車両系建設機械運転 車両系建設機械運転技能講習	区分	資格
背景と目的	車両系建設機械（労働安全衛生法施行令別表7で掲げる建設機械で、動力を用い、かつ、不特定の場所に自走できる機械）の技能講習を修了する。				
科目内容	労働安全衛生法施行令で定めた車両系建設機械を使用する業務に就くために必要な技能講習を受講する。				
日程	8月～9月（6日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	装置の構造、取扱いの方法、作業方法について理解する。	走行に関する装置の構造及び取扱いの方法、作業方法に関する知識を習得（学科）	9	林業労働機械化センター	林業技術センター
②	車両系建設機械を運転するために必要な事項、関係法令について理解する。	運転に必要な一般的事項、関係法令に関する知識の習得（学科）	4	林業労働機械化センター	林業技術センター
③	車両系建設機械の走行操作を行う。	走行の操作（実技）	20	林業労働機械化センター	林業技術センター
④	車両系建設機械で作業するための装置の操作を行う。	作業のための装置の操作（実技）	5	林業労働機械化センター	林業技術センター
		計	38		
到達目標	車両系建設機械を運転する作業の安全を確保するため、必要な知識を習得するとともに、技能講習を受講し、修了証を取得する。				
評価方法	車両系建設機械運転技能講習修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	車両系建設機械運転技能講習修了証を取得すること。				
テキスト	主催者が準備（車両系建設機械運転者教本）				
教育機材	主催者が案内で指定（手袋、ヘルメット、安全靴） 研修生：作業着、ヘルメット、手袋、筆記具				
関連講習	短期課程の研修（林業作業士養成研修）と共催、A-4・B-3：林業機械				
担当者	管理・林業大学校研修課職員	他講習受講で時間免除あり			
備考	林業作業士研修と合同で実施。受講申込書を機械化センターに送付。 精算は受講後。 資格証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。 （公社）宮崎県林業労働機械化センター（0985-29-6008）				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 59

研修コード	C-1-(15)	研修科目	狩猟免許（わな猟） 狩猟免許講習、試験	区分	資格
背景と目的	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法令を理解し、免許を取得する。				
科目内容	鳥獣保護管理法に基づく試験				
日程	6月（1日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	狩猟免許試験に資格取得	学科試験（わな猟）	3	自然環境課	林業技術センター
②	〃	実技試験（わな猟）	3	自然環境課	林業技術センター
		計	6		
到達目標	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法令を習得するとともに、わな猟狩猟免許を取得する。				
評価方法	わな猟狩猟免許を確認することによる評価とする。				
評価基準	わな猟狩猟免許を取得すること。				
テキスト	狩猟読本				
教育機材	講師の作成資料 研修生：作業着、ヘルメット、手袋				
関連講習	A-5-(2)：鳥獣被害対策				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	受講申込書を所轄の県出先へ提出 宮崎県自然環境課野生生物担当（0985-26-7291）				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 60

研修コード	C-1-(16)	研修科目	鳥獣被害対策マスター マスター研修、認定研修	区分	資格
背景と目的	被害実態の把握や対策に向けた計画などを企画実践できる知識や法令を理解し、 鳥獣被害対策を指導できる認定証を取得する。				
科目内容	被害実態の把握や対策に向けた計画などを企画実践できる技術指導者を育成する。				
日程	8月～9月（2日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	研修Ⅰ	鳥獣被害対策マスターとは 関係法令、基本知識	2.5	鳥獣被害対策 支援センター	総合農業 試験場 ほか
②	研修Ⅱ	捕獲対策の現状と方法、課外鳥 獣の特性、被害防止対策	3		
③	研修Ⅲ	鳥獣害に強い環境改善対策、合 意形成手法、集落環境診断	6		
		計	11.5		
到達目標	被害実態の把握や対策に向けた計画などを企画実践できる宮崎県鳥獣被害対策 マスター認定証を取得する。				
評価方法	宮崎県鳥獣被害対策マスター認定証を確認することによる評価とする。				
評価基準	宮崎県鳥獣被害対策マスター認定証を取得すること。				
テキスト	主催者から提供				
教育機材	主催者が準備 研修生：作業着、ヘルメット、手袋、筆記具				
関連講習	A-5-(2)：鳥獣被害対策				
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	受講申込書を総合農業試験場へ提出 総合農業試験場鳥獣被害対策支援センター（0985-44-1816）				

令和3年度 みやざき林業大学校 長期課程 シラバス

No. 61

研修コード	C-1-(17)	研修科目	フォークリフト運転 フォークリフト運転認定研修	区分	資格
背景と目的	フォークリフトを運転する作業の安全を確保するため、必要な知識を理解するとともに、技能講習を受講し、修了証を取得すること。				
科目内容	労働安全衛生法施行令で定めたフォークリフトを使用する業務に就くために必要な技能講習を受講する。				
日程	5月（4日間）				
研修番号	テーマ	講義内容	時間 (h)	講師	研修場所
①	フォークリフト運転に必要な知識を習得する	フォークリフト運転に関する関係法令、基本知識	12	林災防	日向市
②	フォークリフト運転技能を習得する	フォークリフト運転に関する技能講習、試験	12		
		計	24		
到達目標	フォークリフトを運転する作業の安全を確保するため、フォークリフト運転技能講習を受講し、修了証を取得する。				
評価方法	フォークリフト運転技能講習修了証を確認することによる評価とする。				
評価基準	フォークリフト運転技能講習修了証を取得すること。				
テキスト	主催者から提供				
教育機材	主催者が準備 研修生：作業着、ヘルメット、手袋、筆記具				
関連講習					
担当者	管理・林業大学校研修課職員				
備考	【受講申込先】林業・木材産業労働災害防止協会宮崎県支部(0985-24-7930) 受講申込書を林災防に送付。精算は受講後。 修了証が届いたら、センターでコピーして学生に配布する。				